

平成26年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

学校名(京都市立鳴滝総合支援学校)

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定					自己評価		学校関係者評価		
アンケート実施結果、その他指標の結果について整理					評価日	評価者・組織	評価日	評価者	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会 による改善に向けた 支援策	
1	確かな 学力	目標・課題を意識した学習への取組	ふり返りシートの記入。実習先からの評価。	児童生徒は目標をもち、課題を意識して学習に取り組んでいる 他	⇒	評価表やふり返りシートを活用して自身の活動をふり返ることはできるようになってきている。 また、仕事に必要な知識や技術を身に付けようとする姿勢も見られる。 しかし、想定外のことへの対処・相談や仕事外でのコミュニケーションの取り方等に課題がある。	⇒	クリーニング師、介護職員初任者研修、アビリンピック他各種資格等取得に向けた取組他、目標を持って生徒がしっかり取り組んでいる姿が見られる。 ビルメンテナンス学習指導書の改訂(DVD)版が今年度発行され、その内容もよりわかりやすいものとなっている。ビルメンテナンス認定制度もできた。	
		満足感・達成感	ふり返りシートの記入。実習先からの評価。	満足感や達成感をもって学習に取り組んでいる					児童生徒・保護者・教職員とも概ね高い評価になっている。
		コミュニケーション	学習活動、生活の上で報告・連絡・相談ができるよう随時に指導。	困ったときに、同僚や上司に助けを求めたり、相談していますか					企業アンケートでの適合度のマイナス評価は約32%でやや低い。
		仕事に必要な知識や技術	校内・校外演習の充実各種資格試験、アビリンピック等への挑戦	仕事をする上で必要な知識や技術を身に付けようとしていますか					生徒が真剣に取り組んでいる姿が見られる。企業からの評価も概ね良い。
2	豊かな 心	自己肯定感	他者から受け入れられたり、自分が役に立ったと感じられるような学習の場の設定。	自分は大切な存在だ、かけがえのない存在だと感じている	⇒	自己肯定感についての適合度・実現度が低く課題である。自分の将来の夢を同僚や上司に話していますかという項目で適合度が低くなっている。インフォーマルなコミュニケーションがあまり出ていないことの表れなのか、また、実際に「夢」を持っているのかを見極める必要がある。 就労がゴールではなく継続して自分自身でキャリアアップしていくことが大切。	⇒	挨拶等については、学校生活すべての場面で丁寧に指導して、生徒は、来客に対する挨拶も出ている。ただ、臨機応変さを求められるような場面でのコミュニケーションには弱さがみられる。 地域協働活動については、今までに取り組んできた様々な場所での校外演習を土台にして取組を拡充していく。	
		挨拶・言葉遣い	挨拶、正しい言葉遣いができるようあらゆる場を通して指導する。	あいさつや、ていねいな言葉づかいができていますか					児童生徒・保護者・教職員・卒業生保護者・企業とも良い評価。
		思いやり・協力	普通科、生活産業科合同の部活動、児童生徒会活動。	友だちへの思いやりをもち、おたがいに協力している					全項目同様、概ね良い評価となっている。
		夢・希望	「夢の実現へのアプローチ」をキーワードに教育活動に取り組んでいる。	自分の将来の夢を同僚や上司に話していますか					企業アンケートでの適合度は2.8と低くなっている。
3	健やかな 体	健康管理	日々の健康観察、本人・保護者への助言	仕事をする上で必要な食事、睡眠、休養を取っていますか	⇒	概ね良い評価となっているが、個々には、健康管理で課題がある生徒も散見される。個々の対応が必要である。	⇒	仕事に向かえる体力づくりについては、今後も継続していく必要がある。 また、個別の対応についても生徒の状況に合わせて対応する必要がある。	
		仕事に向かえる体力づくり	ワーキングデイ(16:00まで作業)・夏学習の設定。	ワーキングデイは週1回夏学習は7日、持久走は5日程度設定。					日々の取組の中で、体力が付くようにしている。
4	独自の 取組	地域協働活動の推進	H26文部科学省「キャリア教育・就労支援等充実事業」を白河総合とともに受託し、3校で地域協働活動を共同開発している。	地域・企業との連携・協働による学習(実習)環境の設定ができています 共有化の試行の後の生徒・教員の感想	⇒	地域の協力を得て、地域の施設等でメンテナンス・福祉介護の演習を実施している。年度末にリソースの共有化に向けた試行をすることができた。	⇒	今年度、3校のリソースの共有についての試行をすることができた。また、自己肯定感を評価するヒアリングの試行も行った。 次年度は、地域協働活動を拡充し、3校のリソースの共有化及びプラットフォームの実践を推進していくことが必要。	
		職業学科3校のリソースの共有化		生徒も地域や企業の協力があり実習等ができていくことを理解している。 他校生に教えたりしたこと刺激となり、自身の活動も意味づけている。					文部科学省の委託事業「キャリア教育・就労支援等の充実事業」の委託をH27年度も受託。地域協働活動、職業学科3校のリソースの共有化の取組を推進していく。

4 総括・次年度の課題

・確かな学力の定着に向けた取組は、各種資格等取得に向けた取組を通して生徒が目標を定め、意欲的な取組ができていることを学校関係者から評価をいただいた。
・また、京都市立総合支援学校ビルメンテナンス認定制度の制定等についても、本校が事務局となり推進することができ、全国に向けて発信することができた。
・文部科学省の委託事業「キャリア教育・就労支援等の充実事業」の委託をH27年度も受けている。地域協働活動を地域等と共同開発していくこと、職業学科3校のリソースの共有化の取組を推進していくことが課題である。また、年度末には発表(報告)することが求められている。
・学校評価に向けたアンケートの取り方については、生徒の課題が浮き彫りになるような質問項目、集計の仕方を検討して実施する。